

令和4(2022)年1月15日(土)

ひらつか市民活動センター

第3回新型コロナウイルスの影響による団体の変化について

アンケート調査結果報告

拝啓、寒冷の候、貴団体におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は一方ならぬご愛顧を賜り衷心より御礼申し上げます。

さて、2020年4月及び12月に新型コロナウイルスによる団体活動における影響についてアンケートにご協力頂きました。新型コロナウイルス感染症が社会に及ぼしてから2年が経とうとしていますが、その間団体各位におかれましては、その影響度は計り知れないものと推察しています。

そこで、今回今後の活動を見据えて、どのような変化や気づきがあったのかを、第3回目として、アンケートを実施させていただきました。

アンケート結果は団体の皆様と共有し、団体運営の課題解決や支援及び連携に活かしていきたいと考えています。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

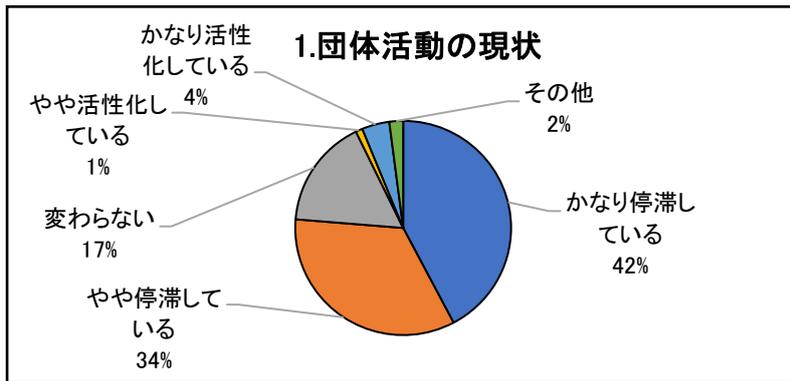
敬具

【実施期間】 2021年11月15日(月)～12月17日(金)

【質問項目】 15項目

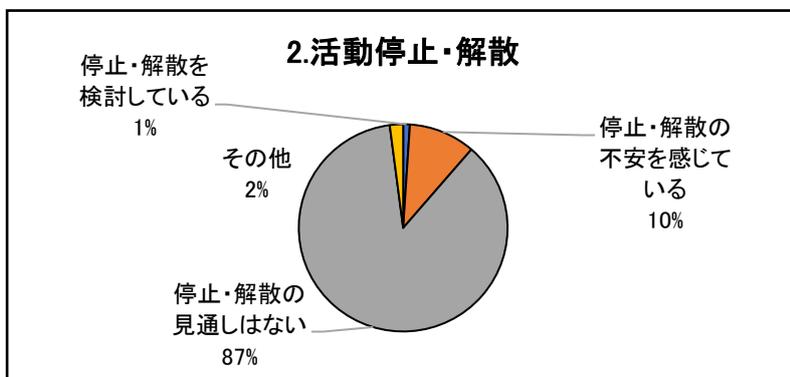
【回答団体数】 97団体

**問1. 新型コロナウイルスの影響によって団体運営が停滞している、あるいは活性化していると
感じる度合いを教えてください**



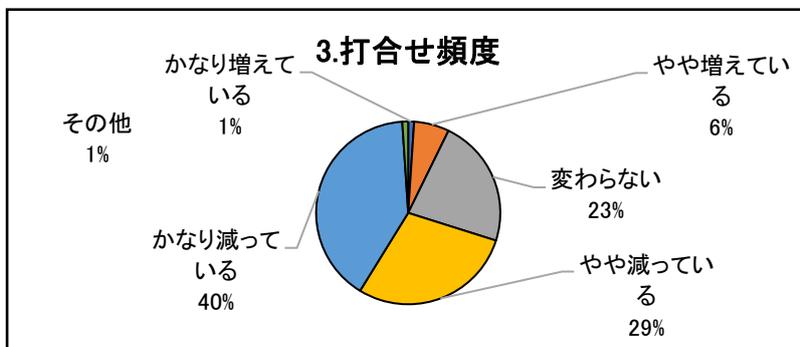
▼かなり停滞している
(41 団体 42%)
▼やや停滞している
(33 団体 34%)
と、全体の 76%が現在も停滞
していると感じている。

**問2. 新型コロナウイルスの影響によって、活動を停止・解散する見通しの度合いについて教え
てください**



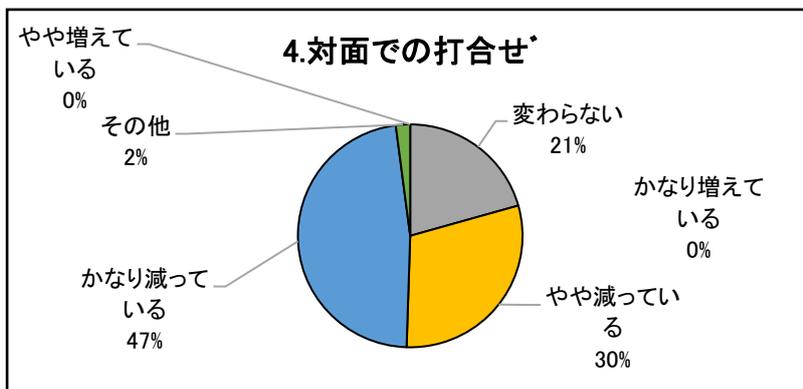
▼停止・解散を検討している
(1 団体 1%)
▼停止・解散の不安を感じてい
る (10%)
と、約 10%が不安を抱えている。

問3. 団体活動の頻度について、コロナ以前とくらべて変化はありますか？



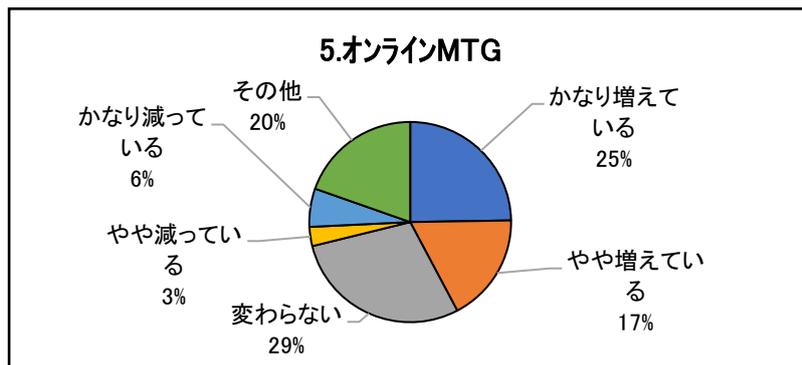
▼増えている団体数も
(7 団体 7%) となっ
てはいるが、70%弱は、以前として減
ったままである。

問4. 対面での打合せや会議の頻度について、コロナ以前と比べて変化はありますか？



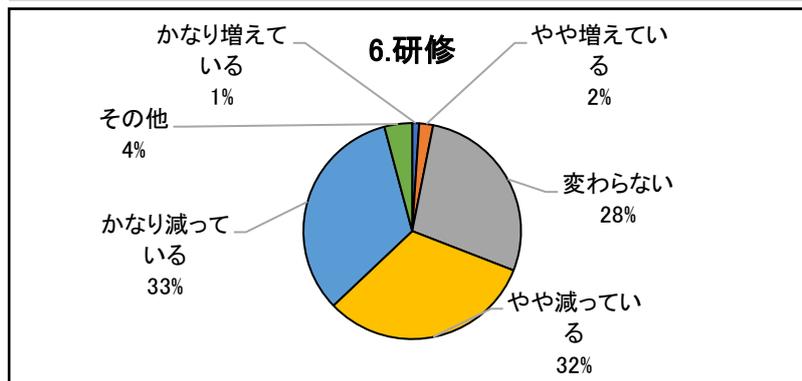
▼かなり減っている
(46 団体 47%)が一番多く、
▼やや減っている
(29 団体 30%) と合わせると
77%に上っている。

問5. オンラインでのミーティングの頻度について、コロナ以前と比べて変化はありますか？



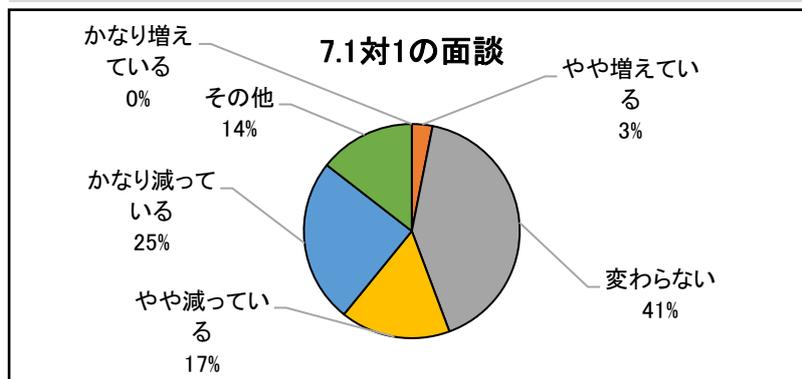
▼41 団体 42%が増えているとなっている。

問6. 団体内における研修等の頻度は、コロナ以前と比べて変化はありますか？



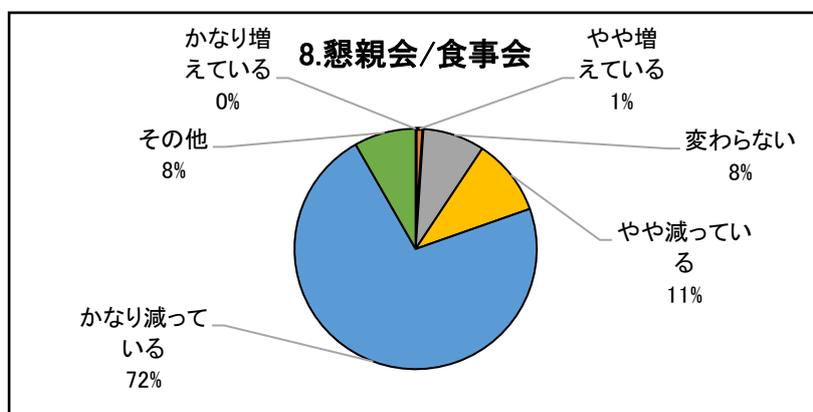
▼問3 とほぼリンクしている。

問7. 1対1での面談（相談対応含む）の頻度は、コロナ以前と比べて変化はありますか？



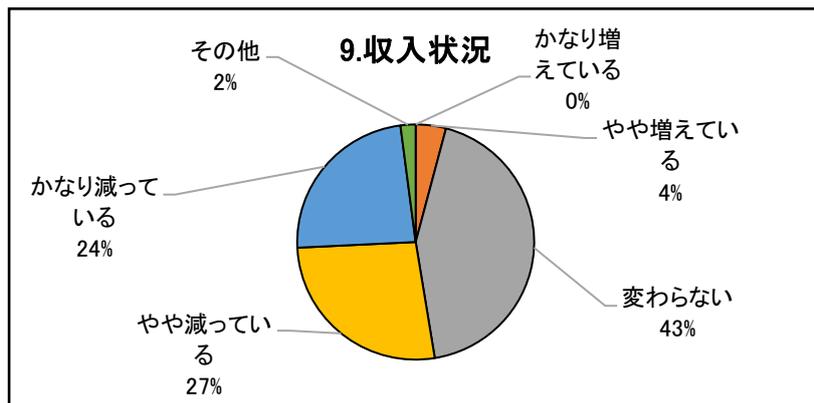
▼「変わらない」と「やや減っている」「かなり減っている」が、それぞれ40 団体 41% と同数である。

問8. 団体内の懇親会や食事会の頻度は、コロナ以前と比べて変化はありますか？



▼80 団体 83%が、「かなり減っている」「やや減っている」となっている。

問9. 団体の収入状況は、コロナ以前と比べて変化はありますか？



▼49 団体 51%は減少しているが、42 団体 43%は変わらないとなっている。
▼逆に増えている団体は 4 団体である。

(付記1) 団体活動の現状 (問1) と活動の停止・解散 (問2) の関連性を示した表

項目	活動停止・解散					
	停止・解散を検討している	停止・解散の不安を感じている	停止・解散の見通しはない	その他	合計	
団体運営の停滞・活性化	かなり停滞している	1	7	33		41
	やや停滞している		3	29	1	33
	変わらない			16		16
	やや活性化している			1		1
	かなり活性化している			4		4
	その他			1	1	2
	合計	1	10	84	2	97

▲団体運営が停滞しており、活動の停止若しくは不安を感じているのが 8 団体となっている。

(付記2) 団体の活動状況 (問1) と現在の収入 (問9) の関連性を示した表

項目	現在の収入							
	かなり増えている	やや増えている	変わらない	やや減っている	かなり減っている	その他	合計	
団体運営の停滞・活性化	かなり停滞している		15	7	18	1	41	
	やや停滞している		15	14	4		33	
	変わらない		2	10	3	1	16	
	やや活性化している			1			1	
	かなり活性化している		2		2		4	
	その他			1			1	2
	合計		4	42	26	23	2	97

▲団体運営が停滞 (74 団体) しており、収入が減っているのは 43 団体である。
逆に増えている団体も 4 団体ある。

新型コロナウイルスの影響に関連して、組織運営における課題・不安や工夫したことやノウハウについての記述意見

問10. 工夫したことやノウハウ

73 の意見の内、52 件（71%）が ZOOM など ICT を活用している。

- ・削減できない打ち合わせに関しては、ほぼ ZOOM に切り替えた。
- ・役員間の報告・連絡・相談等、メールが増えた。会員への情報提供や行事開催の可否等、ホームページへの掲載で周知を図った。
- ・グループラインで出来るだけ情報共有を図っている。
- ・ZOOM を実施することで定例会に参加できなかった遠方の人に参加できるようになった。ZOOM を利用できない会員もいるので会場をオンライン併用とした。
- ・お知らせを毎月発行し会員へ届けて活動の「見える化」を図った。
- ・受付用感染防止シールドを手作りしたほか、体温計も準備した。

問11. 組織の変化（プラスやマイナス）について

- ・感染防止を最優先に考え、あえて必要としない行事物は全て中止したが、一時期コミュニケーションが絶たれた。
- ・以前から発行していた紙媒体については、従来はイベントの振り方がメインであったが、出来る限り会員の顔が見えるような内容に切り替える工夫を行った。
- ・今まではグループラインを使っていたが、顔が見える話し合いが良いと ZOOM を導入した。
- ・ZOOM を導入した結果、対面会議より負担感はなくなった一方、インターネット環境がない人たちが参加できず、情報の格差が生まれた。
- ・PC 等苦手な人には対面、孤立しないように LINE 電話等でミーティングを実施するようにしている。
- ・オンライン会議を積極的に取り入れるなど、コロナに関係なく今後の対応にも生かせることがわかった。
- ・リアルミーティングを益々大切にするようになり、士気が高揚した。

問12. メンバーのケアについて

- ・「あんしんカード」を会員に配布中。この活用によって会員の生活面の不安を少しでも軽減できればと思っている。
- ・場所の人数制限はあるが、4~5 人で話を聞くことで安心感を得てもらう。
- ・子ども食堂で作った弁当を届けることで、メンバーの状況を把握し生活面で必要なサポートを行うことが出来た。
- ・緊急対策として、自宅だけでなく家族の連絡先も登録し会合時の対策とした。

- ・その時々での状況を「お知らせ」という形で丁寧に文書を出した。
- ・「新型コロナウイルス感染防止に向けた対応」の資料を作成し研修会を実施した。

問 1 3. 今後の不安や課題について

- ・年次総会が書面での開催が2年続いているので、会員間の情報共有・交換が課題。
- ・社会全体として定年退職年齢が上がっているため、60歳代の会員が減っているように思う。結果、会の平均年齢が上がり活動の自由度が減りコロナ禍が追い打ちをかけている。組織構成が悩みである。
- ・拠点維持にかかる固定費や活動が増えるほど支出も増え会員や支援が減少している。イベントでの収入を安定させるためにどうしたらよいかが悩み。
- ・会員の高齢化で減少傾向にあるのと担い手が見つからない。

問 1 4. 今後の方針やチャレンジしたいことについて

- ・メンバー間のコミュニケーションが課題となっているため、次年度具体的にどう進めていくか理事会の在り方を含め検討する。
- ・必要に応じて ZOOM などのツールを使用していくことも常態化するので、古くから役員をしている人にも一定の PC スキルを身に付けてもらい、感染リスクの少ない方法を選択したい。
- ・ボランティアの学生が「まち歩き」に参加したことで、会が明るい雰囲気になったので若い世代を意識して活動を展開したい。
- ・リアルの会議を増やしていきながら宣伝製作も増やしていく。
- ・新入会員拡大活動・インターネットやスマホ活動の強化・リーダー層の交代推進・全会員とのコンスタントなコミュニケーション・収支改善の取組み。
- ・HP を開設し、行動予定・報告書等を公表することで、団体を広く知ってもらおうと共に会員間の情報共有の場としたい。

問 1 5. メッセージやその他感じていること

- ・団体運営において、コロナがきっかけでオンライン導入の踏み台になったと思う。オンラインに否定的だった人がこの必要性和導入を認めるようになりました。
 - ・活動を効率的に行うために昔からリモートは活用していたが、コロナ禍で役に立った。会員同士の交流（会食等）がないと思われるかも知れないが、サークル活動ではないので必要ない。
 - ・対面で話し合える機会が減り意識共有の難しさを感じておりメールでは本音が出しにくい。ランチやお茶などの時間必要性を感じている。
 - ・ひらつか市民活動センターに期待する事は「ボランティアをやろうと思っている人」「ボランティア団体」とのコラボ、マッチングの場づくり。
- 以上